

ゼミ応募支援システムmatchの 経営システム工学科での利用例

2018年3月9日（金）

法政大学 大塚 帯紀

目次

- ▶ ゼミ選考について
- ▶ システム導入の背景
- ▶ ゼミ選考の流れ（2016年以前）・問題点
- ▶ 新システム移行にあたっての考慮事項
- ▶ ゼミ選考の流れ（2017年）
- ▶ ゼミ選考改善状況
- ▶ まとめ

ゼミ選考について

- ▶ 毎年 4月に実施
- ▶ 3年生が対象
- ▶ 対象学生数を教員で割った数を定員とする。
ばらつきが発生する場合は、選考状況にあわせて、
適宜変更する。

	学生数 15名	学生数 16名
教員 A	5名	5名
教員 B	5名	6名
教員 C	5名	5名

システム導入の背景

- ▶ 従来のゼミ選考のスケジュールを短縮する必要が発生した。
 - ▶ ゼミ紹介のガイダンスから配属ゼミ確定まで、約19日を要していたが、授業登録の仕組み変更の関係で2週間で確定することが必須になった。

スケジュール短縮と共にその他の問題も解決することを目標にゼミ選考システムの導入を決定。

ゼミ選考の流れ（2016年以前）

1次希望

- ▶ 希望調査**用紙**を配布し，1週間前後で回収。
 - ▶ 所定のBOXに期限日まで提出させる。
- ▶ 学生は，希望する**ゼミを1つ**選択。
- ▶ 回収後の集計は，Excel or Access行う（教員は関与しない）。

希望調査用紙のイメージ図

学生証番号		氏名			
教員名	<input type="checkbox"/>	教員名	<input type="checkbox"/>	教員名	<input type="checkbox"/>
教員A		教員D		教員G	
教員B	<input checked="" type="checkbox"/>	教員E		教員H	
教員C		教員F		教員I	

ゼミ選考の流れ（2016年以前）

1次希望

- ▶ 定員以下のゼミを希望した生徒はゼミ確定。
- ▶ 定員数ちょうどのゼミは募集を締め切る。
- ▶ 希望者が定員より多い場合、そのゼミを希望した生徒は2次希望対象者となる。

ゼミ定員数5名の場合の例

教員名	希望数	2次希望での募集数	
教員 A	3名	2名	希望者はゼミ確定
教員 B	5名	0名	希望者はゼミ確定, ゼミ募集締切
教員 C	7名	5名	希望者は2次希望へ

決定内容の報告は、
掲示で行う。

ゼミ選考問題点

- 提出後に学生が、希望ゼミを変更したい場合、変更の手間がかかる。
- 集計作業に時間がかかる。
- 集計ミスリスク有。

ゼミ選考の流れ（2016年以前）

1次希望と同じ流れ

2次希望

- 希望調査**用紙**を配布し、3, 4日で回収。
 - 所定のBOXに期限日まで提出させる。
- 学生は、希望する**ゼミを1つ**選択。
- 回収後の集計は、Excel or Access行う。

希望調査用紙のイメージ図

学生証番号			氏名		
教員名	<input checked="" type="checkbox"/>	教員名	<input checked="" type="checkbox"/>	教員名	<input checked="" type="checkbox"/>
教員A	<input checked="" type="checkbox"/>	教員D	<input type="checkbox"/>	教員G	<input type="checkbox"/>
教員B	<input type="checkbox"/>	教員E	<input checked="" type="checkbox"/>	教員H	<input checked="" type="checkbox"/>
教員C	<input type="checkbox"/>	教員F	<input type="checkbox"/>	教員I	<input type="checkbox"/>

ゼミ選考の流れ（2016年以前）

2次希望

- ▶ 定員以下のゼミを希望した生徒はゼミ確定。
- ▶ 定員数ちょうどのゼミは募集を締め切る。
- ▶ 希望者が定員より多い場合、教員による選考を行う。
 - ▶ 成績，**面接** etc.

ゼミ定員数5名の場合の例

教員名	1次決定数	2次希望数	
教員 A	3名	1名	希望者はゼミ確定
教員 B	4名	1名	希望者はゼミ確定， ゼミ募集締切
教員 C	0名	7名	希望者は教員選考

ゼミ選考の流れ（2016年以前）

3次希望

- ▶ 学生同士の話し合いにて決定.
 - ▶ 定員数に達してないゼミから選択
 - ▶ 教員の希望は考慮しない.

ゼミ選考問題点

- 提出後に学生が，希望ゼミを変更したい場合手間がかかる．
- 集計作業に時間がかかる．
- 集計ミスリスク有．
- 学生，教員の希望を考慮しきれていない．

新システム移行にあたっての考慮事項

- ▶ スケジュールの短縮化.
- ▶ 学生, 教員の希望を配慮する.
- ▶ 集計の手間を省く.
- ▶ 前年度までのゼミ選考の流れを大幅には変更しない.
 - ▶ 混乱を避けるため.

ゼミ選考の流れ（2017年）

1次希望

- ▶ **Web経由**にて1週間前後で投稿.
 - ▶ 修正は再投稿を行うことで可能.
- ▶ 学生は，希望する**ゼミを1つ**選択.
- ▶ 登録データから自動的にゼミ配属の決定状況を報告する（学生，教員宛）.
 - ▶ 決定状況はメールで配信.

ゼミ選考の流れ（2017年）

1次希望

- ▶ 定員以下のゼミを希望した生徒はゼミ確定。
- ▶ 定員数ちょうどのゼミは募集を締め切る。
- ▶ 希望者が定員より多い場合，そのゼミを希望した生徒は2次希望対象者となる。

ゼミ定員数5名の場合の例

教員名	希望数	2次希望での募集数	
教員 A	3名	2名	希望者はゼミ確定
教員 B	5名	0名	希望者はゼミ確定， ゼミ募集締切
教員 C	7名	5名	希望者は2次希望へ

ゼミ選考の流れ（2017年）

2次希望

- ▶ **Web経由**にて1週間前後で投稿.
- ▶ 学生は、募集対象のゼミ全てに対し、希望順を入力する.
- ▶ 希望者が定員より多い場合、教員による選考を行う。
 - ▶ 成績， **面接** etc.

教員B	第一希望
教員C	第三希望
教員D	第二希望
教員E	第四希望

ゼミ選考の流れ（2017年）

2次希望

- ▶ 教員による選考で不合格となった生徒は，第二希望以降のゼミから自動的に配属先を決める。
 - ▶ マッチングは学生最良安定マッチングを採用。
- ▶ 3次希望は行わない。

ゼミ選考改善状況

- 提出後に学生が、希望ゼミを変更したい場合手間がかかる。 ⇒ 改善
- 集計作業に時間がかかる。 ⇒ 改善
- 集計ミスリスク有。 ⇒ 改善
- 学生、教員の希望を考慮しきれていない。 ⇒ 改善
- ゼミ選考の結果は、csvデータ得られるため、結果揭示の作業がしやすい。
- 教員、学生へメールでの連絡が可能になり、連絡が以前より徹底された。

まとめ

- ▶ 旧来のゼミ選考に対し大幅な改善が実現した
 - ▶ 作業者の手間（業務時間の確保）
 - ▶ 学生，教員双方の希望を考慮.
- ▶ 期待以上の改善も得られた
 - ▶ 連絡の徹底
 - ▶ 掲示作業の手間